

里山はっけん隊紙芝居 秋版「田んぼはいいなあ。」



①秋の田んぼはきれいだなあ。

お米が実って重たそうに稲穂が垂れている田んぼは、まるで黄金の波のようだよ



②たんぼはいいなあ。

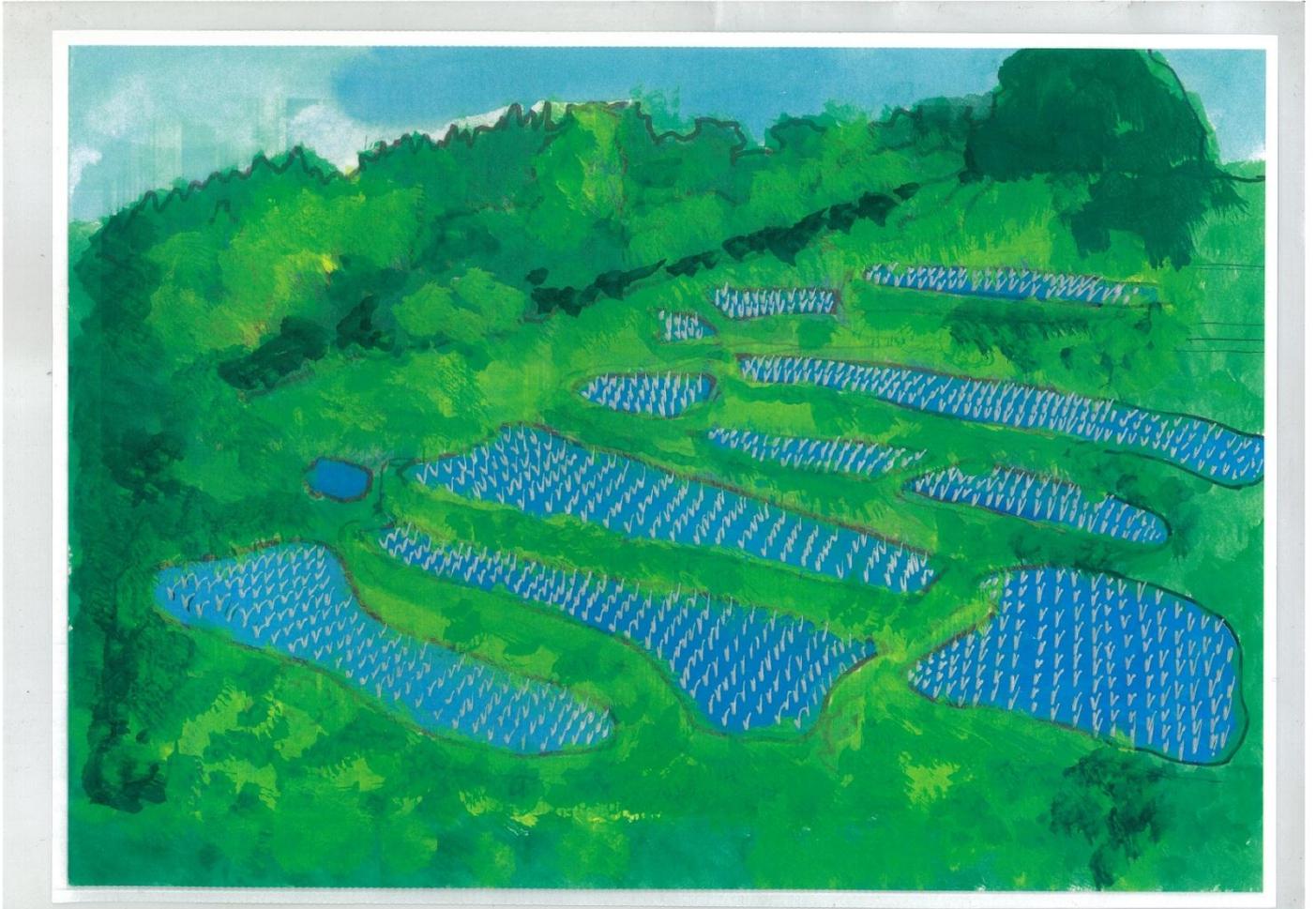
おいしいお米が沢山できて、ごはんがいっぱい食べられるよ。

お米でパンだって、お菓子だって作れる。

遠い昔、大陸からお米の作り方を知っている人たちが、船に乗って日本にやってきたんだよ。



③それまで私たちの祖先は、狩りで取ったイノシシやウサギ、木の実のクリやどんぐりなどを食べていたのでお米のおいしさには本当にびっくりしただろうね。それにお米は保存することもできたので瞬く間に日本中にお米作りが広がったんだね。



④人々は少しでも沢山おいしいお米をつくろうと、川を堰き止め水路を張り巡らし、田んぼをふやしていったんだ。そして、私たちの国は、いたるところに水が流れ、辺り一面田んぼが続くみずみずしい風景にかわっていったんだ。



- ⑤春のたんぼはいいなあ。人々がお米を作るために代かきを始めると、それを待っていたように、沢山の生き物が田んぼに集まってくるんだよ。
- ギンブナやメダカが川をさかのぼって田んぼに入り、卵を産む。カエルもトンボも卵を産みにやって来るよ。水の中は小さい昆虫でいっぱいだよ。



⑥外国からもやってくる。毎年春になると日本の田んぼを目当てに大陸からウスバキトンボやウンカが飛んでくるよ。そして日本の田んぼに卵を産むんだ。



⑦畦にはスマレ、コオニタビラコ、ジシバリなど可愛い花がいっぱい咲くよ。それを積んで花束にするんだ。水の中にはコナギやオモダカが咲くよ。



⑧ 田んぼの夏はいいなあ。カエルの鳴き声でとてもにぎやかだよ。

それに田んぼにうつる月がとってもすてきなんだ。

ホタルも出てくるよ。

田んぼはキラキラ照り付ける太陽の熱を、奪ってくれる。

田んぼを渡る風は涼しいよ。

それに大雨の時は一つ一つの田んぼがまるでプールみたいに水をためて、洪水をふせいでくれるんだよ。



⑨秋の田んぼはいいなあ。すすきはキラキラ輝いていて、赤とんぼが空いっぱい飛んでいる。

畦には、可愛い野菊が咲いているよ。

人々は人間のそばを離れないトンボを見て、ご先祖の霊かもしれないと思ったんだね。



⑩田んぼのお米が取れると人々は神様に感謝して、捧げものをするんだよ。

神社ではお祭りがあって、屋台がいっぱい並ぶよ。



⑪空を見上げると渡り鳥の群れが飛んでいくのが見えるよ。

遠く北の海を越えてオオハクチョウやマガンなどが飛んできて、日本の田んぼで冬を過ごすんだよ。

それを見て、江戸時代の俳句を作っていた代表的な人である小林一茶は「今日からは 日本の雁（かり）ぞ 楽に寝よ」と歌ったんだ。これは、今日からは日本の雁だ。安心してゆっくり寝るがよい。という意味だよ。雁というのは、とっても寒い地域で生まれ、秋冬になると田んぼに生きものが多くいる温かい日本へはるばると海を渡ってくるんだ。この句からは、昔から雁が外国から日本の田んぼを目指して飛来してきていたことや動物や自然に対する愛情が感じられるよね。



⑫冬の田んぼはいいなあ。

稲の刈り終えた株からまた葉っぱが出てくる。

湿った田んぼを掘るとドジョウやタニシがとれるよ。

湿った田んぼには、もうアカガエルが卵を産みに来る。

田んぼの水が凍ってしまうような冬に、もう春の準備が始まっているんだ。



⑬早春の乾いた田んぼはレンゲがいっぱい咲いてピンクのじゅうたんだ。

寝転んで空を見たり、レンゲで王冠や首飾りも作れる。

君はその王冠をだれにあげる？



⑭お米作りにはみんなの食べ物を作っているという誇りがある。

何が起こっても、人はまず、食べ物がないと生きていけないからね

人々がお米を作るために工夫していたら、いつの間にか他の生き物も育てていたんだね。

だから君には田んぼに来てほしい。

君は田んぼで何を見つけるだろうか？



⑮きっと、来るたびにいろんなものが見つかるよ。

見つかった数だけたんぼが好きになるよ。

君もきっと、「たんぼはいいなあ。」と思うよ。

おしまい。